

政治家への思い

氏 名 三 橋 達 雄

思えば自分が政治に積極的に関わろうと考え始めたのはたった1年前。東日本大震災に対する対応が遅々として進まない中、国民の生命・財産を守るべき国政に対する不満や疑問を持っていた所に「自民党ぎふ政治塾」の塾生募集ポスターを見て応募したのがきっかけである。

その後は政治塾を通じて数多くの政治家に必要な素養を得てきた。おかげで「良く分からない」と言われがちな「自民党」と「民主党」の違いも、自分なりにではあるが明確にわかるようになった。

政治塾に入塾して以降、日々の生活の中で政治の事を考える時間も非常に長くなっている。たとえば、家族との時間を過ごしたり仕事や学校に行く。そんな日常生活の中にも数多くの公共によるインフラ・サービスの提供がなされているのであり、提供されるそれらは国や地方が定める法令や予算に基づいて行われている事は言うまでもない。塾生となってからは、こうした日常生活の中の政治が果たしている役割にも目が行き、利用者の様子や利便性などを市民目線で査定してしまう事も少なく無い。新聞などの記事に関して家族や友人と意見を交わす事も確実に増えている。

国政や地方行政に関わらず、政治家とそうでない人との違いとは、つまるところはこの政治を考える時間にあるのだと自分は考える。

通常、人は政治をあまり意識しない。意識しなくても日常生活に支障をほとんど感じない。政治を意識するのは自身に関連する安全・安心や利益が損なわれた、もしくは損なわれそうな場合などに限られがちである。これに対して政治家は当然ながら常に政治を考え、常に有権者の声に耳を傾けながらそれぞれの立場で実現に向けて努力する。

常に政治の事が頭から離れなくなっている自分は、この考えで行けば立派な政治家の端くれである。

ところで、現在の日本は、領土という国家の本質に関わる外交問題を始め、教育、経済、震災復興などのまった無しの数多くの問題に直面している。これらの問題に的確に対処でき得るのは現時点では明確な要綱と的確な問題解決能力を持つ自民党以外に無い。

自分はどのような形であれ、自民党に関わる形で自分の政治家としての道を進んで行く事と思う。